

和歌山工業高等学校

実施日時	令和2年10月30日（金）
参加者	生徒400名、教職員32名 計432名
実施内容	防災啓発 DVD 上映、地震体験 等

ねらい

- 防災意識の向上

主なプログラム

- 1 防災啓発 DVD 上映
- 2 地震体験

概要

- 1 全クラスに「3.11岩手大津波の記録」（釜石の奇跡）DVDを鑑賞させ、避難訓練の重要性を伝える。
- 2 「地震体験車 ごりょう君」による地震体験をし、危機感や対応などを伝える。

参加者感想文

・「3.11 岩手大津波の記録」

- 大地震が起きたときは、どう行動することができるか、どう行動しなければならないのか、1人ひとりが考えて行動することが必要だと思いました。
- 防災教育をうけるたびに、改めて地震や津波の恐怖を感じました。今後も大地震が予想されるので、準備等をしておきたいと思いました。
- 自分の身は自分でしっかりと守ることの大切さや、大地震の恐怖を感じ、避難するときの重要点などの知識を学ぶことができました。

- 私たちは、防災訓練をしっかりと真剣に取り組むことが、助かる方法だと思った。
- 中学生という年頃なのに、小学生の手を引いて避難している姿は、立派な行動をとっていてすごいと思った。想定（ハザードマップなど）にとらわれないことはものすごく大切だと思った。

【DVD鑑賞】



・防災スクール当日感想文

- 災害はとても恐ろしいものと捉えていたけど、震度7を体験することができ、より一層恐怖を感じました。災害にはとっさの対応が必要と感じた。
- 日頃から災害に備えて準備しておくことが大事だと思った。
- 地震体験をすることで、予想以上の揺れを感じ、身の回りの環境の整理や行動の大切さを学ぶことができました。

【地震体験者 ごりょう君】



成果と課題

【成果】

全1年生を対象に防災意識を高めてもらうため、「3.11岩手大津波の記録」(釜石の奇跡)を1クラスずつで個別に鑑賞しました。この事前学習により、避難訓練を真剣に取り組むことや想定にとられない判断など、防災に対する意識が高くなったと感想文から推察されました。

防災スクールでは、「地震体験車 ごりょう君」による地震体験を行った。自然災害の怖さや災害が起きたときの正しい判断が重要であることを学ぶことができました。どの生徒も積極的な姿勢で地震の強度を体験し、感想では、「地震の恐怖を改めて感じた」・「防災に対して意識が変わった」と防災に対する意識を高めることが出来たと思っています。

【課題】

今後は、避難訓練や防災教育の回数を可能な限り増やし、防災スクールで高まった意識を継続、そして家族・友人など色々な人に伝達していけるようにすることが課題であると考えています。